

神奈川県立がんセンター

病理診断科 常勤病理医 募集

当科の特色

県内複数の大学と連携しながら、診断の質向上とともに、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいます。過度な業務負担を避け、個人の意思を尊重した適切な勤務体制の維持とチームでの協力を重視しています。現在は体制強化を進めており、より持続可能で質の高い診断体制の構築を目指しています。若手医師の育成にも注力し、経験を積みながら成長できる環境を整えています。

1) 多彩な症例とチーム診断

主要臓器から希少がんまで幅広い豊富な症例。臓器担当制とダブルチェックで診断の質を担保します。診断難渋症例は合同カンファレンスで検討し、必要に応じて外部コンサルタントの助言も得ています。

2) 臨床連携の密度

臓器別カンファレンスを定期開催し、病理所見の臨床的意義をその場で共有。追加検査の提案や方針決定に直結する対話が日常的です。

3) がんゲノム医療への実務参画

遺伝子パネル検査の検体選択や結果解釈、エキスパートパネルへの参画を通じ、分子病理の実践機会が得られます。

募集の背景

神奈川県立がんセンター病理診断科では、診療体制強化のため定員枠を増やし、新たに常勤病理医 1 名を募集することになりました。

外科病理診断に加えてがんゲノム医療や研究活動にも力を入れ、より高度で多様ながん診療に対応できる体制の充実を図っています。

病理診断科 メンバー（国際留学生受け入れ時）



主な業務

- ・ 組織診 (手術・生検):年間約 12,500 件
- ・ 細胞診 (細胞検査士との連携):年間約 8,000 件
- ・ 術中迅速病理診断:年間約 800 件
- ・ 合同カンファレンス/カンサーボードでの所見提示
- ・ 病理解剖:近年は減少傾向ですが、今後は年 10 件程度を想定
- ・ 治験業務件数：年間約 300 件

現在の診断体制

- ・ 常勤病理医 6 名
- ・ 非常勤 13 名
- ・ 病理検査技師 12 名
- ・ 内、細胞検査士 7 名
- ・ 認定病理検査技師 3 名
- ・ 事務補助 3 名

当科で得られる経験

主要臓器から希少がんまで幅広い症例を経験し、オールラウンドな診断力を養うことができます。外科病理を基盤としつつ**分子病理・がんゲノム医療**にも携わり、実践的な専門性を高める環境です。

さらに、臨床各科とのカンファレンスを通じて連携や発表のスキルを磨く機会があり、併設の臨床研究所との協働による学術活動も推進しています。学会発表・英文論文作成など研究活動への支援体制も整っています。

求める人物像

外科病理を着実に担い、協調的で温厚なコミュニケーションができる方。丁寧な診断を心がけ、チームで質を高める姿勢のある方。臨床各科との協働やカンファレンスでの意見交換を通じて実践的な診断力を磨きたい方を歓迎します。また、**研究活動に意欲のある方も歓迎**します。臨床と研究の双方に理解のある方に適した環境です。

応募方法

応募方法の詳細(提出書類・選考・条件等)は、当院公式の公募要項をご確認ください。

【事前職場見学について】

当科では応募前の職場見学をお勧めしております。実際の業務環境や当科の雰囲気をご確認いただくとともに、私たちも応募者の方とお話しする貴重な機会と考えております。

見学のご希望は随時受け付けており、日程は調整のうえご案内いたします。

ぜひ一度ご来院ください。

担当:病理診断科 部長 大久保 陽一郎

[メールアドレス:ookubo.0940f●kanagawa-pho.jp\(●を@に変換してください\)](mailto:ookubo.0940f@kanagawa-pho.jp)

※遠方等、事情がある場合は、オンライン(Zoom)での対応も検討いたします。



神奈川県立がんセンターで、私たちと共にがん診療を支える病理診断に携わりませんか。
皆様のご応募を心よりお待ちしております。

最近の学術業績 (当科の病理医が筆頭・責任著者論文のみ)

- ① **Hasegawa C** et al. Usefulness of brg1 immunostaining in detecting smarca4 deficiency in "so-called" cancers of unknown primary in daily pathology practice. **Diagn Pathol** in press
- ② **Okubo Y** et al. Cribriform pattern and idc-p in prostate biopsies: Prognostic relevance and reporting in metastatic disease. **J Pathol Clin Res** 2025;11;e70052.
- ③ **Washimi K** et al. Chemokine expression in well-differentiated liposarcoma may be involved in the tumorigenesis of lymphoplasmacytic lymphoma: A case study. **Cancer Rep (Hoboken)** 2025;8;e70129.
- ④ **Okubo Y** et al. Effect of storage temperature on nucleic acid quality in formalin-fixed paraffin-embedded tissue samples. **Ann Diagn Pathol** 2025;78;152496.
- ⑤ **Okubo Y** et al. Stepwise identification of an sqstm1::Ntrk3 fusion in papillary thyroid carcinoma: Diagnostic pitfalls and the value of integrative genomic profiling. **Pathol Res Pract** 2025;272;156100.
- ⑥ **Ono Y** et al. Primary omental smooth muscle tumor in an adult male: A diagnostic dilemma for leiomyoma: A case report. **J Med Case Rep** 2024;18;222.
- ⑦ **Okubo Y** et al. Effective preparation of ffpe tissue samples for preserving appropriate nucleic acid quality for genomic analysis in thyroid carcinoma. **Endocr Pathol** 2024;35;372-384.
- ⑧ **Washimi K** et al. Evaluation of pancreatic cancer specimens for comprehensive genomic profiling. **Pathol Int** 2024;74;252-261.
- ⑨ **Okubo Y** et al. Clinicopathological analysis of thyroid carcinomas with the ret and ntrk fusion genes: Characterization for genetic analysis. **Virchows Arch** 2024;485;509-518.
- ⑩ **Hasegawa C** et al. Differential diagnosis of uterine adenosarcoma: Identification of jazf1-bcorl1 rearrangement by comprehensive cancer genomic profiling. **Diagn Pathol** 2023;18;5.
- ⑪ **Okubo Y** et al. Review of the developing landscape of prostate biopsy and its roles in prostate cancer diagnosis and treatment. **Arch Esp Urol** 2023;76;633-642.
- ⑫ **Okubo Y** et al. Histological findings of thyroid cancer after lenvatinib therapy. **Histopathology** 2023;83;657-663.
- ⑬ **Washimi K** et al. Histological markers, sickle-shaped blood vessels, myxoid area, and infiltrating growth pattern help stratify the prognosis of patients with myxofibrosarcoma/undifferentiated sarcoma. **Sci Rep** 2023;13;6744.
- ⑭ **Okubo Y** et al. Cribriform pattern and intraductal carcinoma of the prostate can have a clinicopathological impact, regardless of their percentage and/or number of cores. **Hum Pathol** 2023;135;99-107.
- ⑮ **Kawachi K** et al. Genetic analysis of low-grade adenosquamous carcinoma of the breast progressing to high-grade metaplastic carcinoma. **Breast Cancer Res Treat** 2023;202;563-573.

※近年は、県内大学との合同研究会も実施し、交流を深めています。